

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：16101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24660004

研究課題名(和文) 子ども虐待防止のため配偶者間DVのアセスメントと支援プログラムの構築

研究課題名(英文) Construction of assessment and support program related to spousal DV for child abuse prevention

研究代表者

谷 洋江(出口洋江)(TANI, Hiroe)

徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・特任教授

研究者番号：60253233

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本課題の目的は、子ども虐待防止のための周産期における配偶者間DVのアセスメントと支援プログラムを作成することである。周産期においてDVアセスメントを行う看護職への面接、児童相談所への通告事例の分析から、通告事例の約半数に夫婦不和・DVがあるが、周産期において把握できていないことが明らかとなった。これらの結果を基に、専門家会議(行政、民間支援団体、臨床心理士、弁護士など)において看護職への教育プログラムを作成・実施し、DVのスクリーニングの導入を図った。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to create an assessment and support program for spousal domestic violence (DV) in the perinatal period for child abuse prevention. DV assessments performed by nurses in the perinatal period and the cases that were supported by child consultation centers were analyzed. The results showed that in about half of the supported cases, there was marital discord·DV. Furthermore, the marital discord·DV had not been identified in the perinatal period in most of the cases. Based on these findings, an education program for nurses about DV support was created and implemented by a panel of experts (government, private support groups, clinical psychologists, lawyers, etc.) and DV screening system was introduced.

研究分野：家族看護学

キーワード：子ども虐待防止 配偶者間DV アセスメント 家族支援

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究者の実践活動

徳島大学病院では平成 16 年から子ども虐待・DV 対策委員会を設置し、「要支援家族の連携支援」を行っている。研究者は大学病院周産母子センターで毎週 1 回行われる要支援家族のアセスメントおよび支援に関するカンファレンス、月に 1 回開催される地域との事例検討会に参加し虐待予防活動を行っている。

(2) 周産期におけるアセスメントの妥当性の検討からの課題

周産期におけるアセスメントの妥当性を検討する目的で、児童虐待対応事例の周産期から要支援家族としての把握、支援の有無の検討を行った。平成 22 年度 4 月から 12 月の間に、子どもの女性相談センター 1 施設において、対応した 3 歳未満の 50 例（実人数 42 例）について、徳島県の協力のもとに調査を行った。周産期から支援があったのは 3 例であり、支援がなかったのは 39 例であった。周産期に把握できていない事例に、配偶者間 DV による心理的虐待事例 11 例と最も多いことが明らかとなった。通告経路は警察であり、家族が危機的状況で発見されている現状があった。

(3) 国内の研究の動向

日本の医療施設における DV 被害者支援の現状調査では、潜在的な被害者を見つけるためのスクリーニングがほとんど実施されていないこと、DV 被害者への対応の困難さが明らかとなっている¹⁾。周産期における被害者支援に関する研究は見当たらない。

2. 研究の目的

家庭内のドメスティック・バイオレンス (DV) の目撃は、子どもにとって心理的虐待となる。しかし現状としては、子どもの虐待防止のために周産期において配偶者間 DV のアセスメントや支援は十分ではない。本研究では、子ども虐待防止のための周産期における配偶者間 DV のアセスメントと支援プログラムを構築する。

3. 研究の方法

(1) 産科外来において妊婦が記入する「子育ての準備はできていますか？」の記載内容の中から、心配なこととして、夫に関するものについて調査する。妊婦が夫に関する不安をあげる割合を統計的に分

析、不安内容を質的に分析する。

- (2) 徳島大学助産師外来、周産期母子センターにおいて、助産師への半構成的面接を行い、配偶者間 DV のアセスメント、把握状況と課題を明らかにする。
- (3) 3 歳未満の児童相談所への通告事例の調査分析を行い、配偶者間 DV による心理的虐待の現状と DV 発生時期、家族の特徴を明らかにする。
- (4) (1) ~ (3) の結果をもとに、子ども虐待防止のための配偶者間 DV のアセスメント方法を試作する。
- (5) DV 対策と支援に関する文献検討、および専門家会議により徳島県内での実際に即した周産期からの支援プログラムを考案する。

倫理的配慮

これらの研究は徳島大学臨床倫理委員会の承認を得て行った。

4. 研究成果

- (1) 産科外来において妊婦が記入する「子育ての準備はできていますか？」の記載内容の分析から、妊婦自身による配偶者間 DV の相談はほとんどなく、妊婦の DV の自覚、相談体制の課題が明らかとなった。
- (2) 助産師外来で勤務する助産師へのインタビューからは、妊娠という慶事の状況の中で DV について話をすることへのためらい、助産師の DV に関する知己の不足、夫婦での受診の場合の妊婦のみと話をすることの困難さ、プライバシーを確保できる場所の問題等が明らかとなった。
- (3) A 県内の 3 歳未満の通告事例の分析から、平成 25 年度における通告事例のうち夫婦不和・DV がみられたのは約半数であった。DV による心理的虐待は他の虐待分類に比較して月齢が低いこと、通告経路は警察、主な虐待者は実の父親であることが明らかとなった。また、DV のある家族は児童相談所への通告以前に公的支援がほとんど受けられていなかった。心理的虐待を受けた子どもの約 30% に社会性の発達に問題がみられ、さらに虐待状態の期間が長い児では、子どもの問題の発生率も高いことが明らかとなった。
- (4) (1) ~ (3) の結果をもとに、産科外来での DV スクリーニングは自記式の質問

用紙と、個室での面談によるアセスメントを併用することとし、アセスメントシートを作成した。

- (5) 徳島県内の児童相談所の専門員、DV対策支援を行うNPO法人および弁護士に研究協力を依頼し同意が得られたもので専門家会議を開き、周産期における支援方法について検討し、DV対応の流れ図を試作した。
- (6) 周産期におけるDVの把握と支援に関する研修会の実施：平成25年度の看護職への面接調査から、周産期におけるDVの把握のためには、看護職者へのDVに関する知識や支援技術の向上が必要であることが明らかとなっている。また文献検討からは教育方法として、看護職者が参加しやすいWEBミーティングシステムの活用や複数回の研修が有効であることが明らかとなった。そのため、A県内の複数の産科病院に協力を得て、WEB研修会を4回シリーズで開催した。研修内容は調査結果を基に専門家会議（行政、民間支援団体、弁護士など）で検討し、A県のDVの現状、司法的対応の理解、DV被害者の支援方法、DV被害者の心理支援を含む内容とした。これらの研修会の内容を報告書にまとめ、県内の産科病院に配布した。
- (7) 周産期におけるDVのスクリーニングの試行：DVのスクリーニングのためのアセスメント方法案を提示し、研修会を受講したA県内の2つの産科病院での試行を開始した。

今後の展望

今後、周産期におけるDVスクリーニングによる把握の頻度、および支援状況を検討する必要がある。また、長期的には、徳島県内のDV目撃による子どもの心理的虐待の通告が減少に転じるのかどうかを調査していきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2件)

橋本浩子、谷洋江 他、周産期からの子ども虐待予防に関する全県的取り組み

の現状と課題、子どもの虐待とネグレクト、Vol.16、No.2、2014、pp.151-158、査読有。

橋本浩子、谷洋江 他、虐待一次予防に向けての検討：3歳未満の子ども虐待通告事例における現状と支援の課題、小児保健とくしま vol20、2012、pp23-27、査読有。

〔学会発表〕(計 9件)

Hiroe Tani、Hiroko Hashimoto, et.al. The recent condition and tasks related to child consultation center cases in one prefecture, ISPCAN Asian Pacific Regional Conference, 2015.10.25, Kuala Lumpur (Malaysia).

Hiroko Hashimoto、Hiroe Tani, et.al. Identifying risk factors leading to serious conditions among parents with stress, anxiety, ISPCAN Asian Pacific Regional Conference, 2015.10.25, Kuala Lumpur (Malaysia).

Hiroe Tani、Hiroko Hashimoto、Tsuneo Ninomiya, Common risk factors associated with abuse-related deaths in adolescent and unwanted pregnancies, XXth ISPCAN International Congress, 2014.9.15. 名古屋国際会議場（愛知県・名古屋市）。

橋本浩子、谷洋江 他、周産期におけるDV被害妊婦のアセスメントに関する文献検討、第20回日本子ども虐待防止学会学術集会、2014.9.14、名古屋国際会議場（愛知県・名古屋市）。

富永早百合、谷洋江、橋本浩子 他、DV被害妊婦を支援する看護職者への教育的法力に関する文献的検討、第20回日本子ども虐待防止学会学術集会、2014.9.14、名古屋国際会議場（愛知県・名古屋市）。

谷洋江、橋本浩子 他、妊娠期における助産師によるDVのアセスメントと課題、日本子ども虐待防止学会第19回学術集会、2013.12.14、信州大学松本キャンパス（長野県・松本市）。

富永早百合、谷洋江、橋本浩子 他、児童虐待の世代間連鎖とその予防的支援に関する文献的検討、日本子ども虐待防止学会第19回学術集会、2013.12.14、信州大学松本キャンパス（長野県・松本市）。

橋本浩子、谷洋江 他、DVによる子ども

への心理的虐待の現状と支援の課題、日本子ども虐待防止学会第18回学術集会、2012.12.8、高知県立大学池キャンパス（高知県・高知市）。

今村麻衣子、橋本浩子、谷洋江 他、ハイリスク養育者にみられる出産に対する準備と認識の特徴、日本子ども虐待防止学会第18回学術集会、2012.12、高知県立大学池キャンパス（高知県・高知市）。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷 洋江 (TANI, Hiroe)

徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス
学研究部・特任教授

研究者番号：60253233

(2) 研究分担者

橋本 浩子 (HASHIMOTO, Hiroko)

徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス
研究部・助教

研究者番号：80403682